

石渡家触回状

P 1

戸田日向守殿御達

百姓之儀者鹿服を着し

髪も薰を以つかね候事

古来之風儀ニ候処、近来

奢ニ長し身分不相応之

品着用いたし、髪も油

元結を用ひ候而已ならず

流行の風俗を学ひ、其外

雨具も蓑笠而已を

用ひ候事ニ候処、当時傘

合羽を用ひ其余之儀

P 3

万端是ニ准し無益之

費多く、先祖・持来候

田畑も人手ニ渡し候儀

嘆ケ敷事候、一躰百姓にて

余業ニ酒食商等いたし

P 4

候類、又者湯屋・髪結床等

有之候儀、畢竟近年之

儀ニ而、若もの共自然

よからぬ道ニ携、柔弱

且放埒之基ニ候間、弥古代

之風儀忘却不致、物毎

P 5

質素ニいたし農業相励

候儀肝要ニ候、且先達而

菱垣廻船積問屋共

其外諸株仲間組合

一統停止之旨被

仰出、御府内ニおいて

同商売何軒ニ而も相
 始させ手広ニ相成候
 ニ付、自然在方江も押移
 候哉ニ相聞候、御府内町々
 在方与一様ニ存し候者
 心得違ニ而候、百姓共専ら
 耕作ニ力を用へき身分
 ニ而、餘業江移町人之

商売を始候儀者決而
 不相成事ニ而

一 近年男女共作奉公人
 少く自然高給ニ相成、殊ニ
 機織下女与唱候もの
 別而過分之給金を取候由
 是又餘業ニ走候故之儀

本末取失ひ候事共ニ候
 元来百姓共者商向
 当座之利潤を以イトなみ 营候
 町人共与者格別之儀ニ候条
 是等之儀能々弁別ヘンベツ
 いたし、一途ニ農業精
 出銘々之持伝候田畑ニ不離

様專一ニ可心懸候
 一 勘当久離帳外之儀
 一 躰不輕儀ニ候故、右躰
 親族のちなみを絶絶絶候
 程之もの出来候者、兼々
 おしえ方不宜故之事ニ候
 悴又者厄介等有之候ものハ勿論

村役人共一同其段厚

相心得、不実之儀

無之様常々異見等差

加、一人たり共其所人別不相

減様取計可申儀肝要

二候

右之趣堅可相守、若等

閑ニ心得候もの於有之者

可及沙汰条、違失無之様

御料者御代官、私領者領主

地頭・可被相触候

右之趣被 仰付

候間可被得其意候

九月

荏田村

此書付急御用之儀申遣候間

宿村繼ヲ以早々繼送り、尤厚木

村・先々繼筋難分間、同村へ

相糺順路宜繼送り、武州池辺村江

可被相届候、以上

評定所出役

論所地頭

鈴木幸一郎

柴田郡平

大磯宿

平塚宿

田村

厚木村

夫・先々村々

役人中

尋儀有之間、一同早々
罷出可相届、若於不参者
可為曲事もの也

寅二月十九日能登

武州都筑郡

池辺村

荏田村

役人共之内

壺兩人ツ、

右

名主

組頭

右大將様御事
今日・

上様奉称候事

七月廿三日

右御書付之趣、村々致承知

村々令印形、早々順達留村・

可相戻候、以上

増上寺

代官所

丑七月廿四日

新古領

村々

公方様御遺骸

八月四日

午上刻

酉上刻

御出棺

御葬送

右之通被

仰出候間、諸事相慎火之元

別而入念、来月三日四日兩日

他行差扣可申候、此段小前江

不洩様可申渡候、右村々致

承知、村下致印形早々相廻し

留村より可相返候、以上

増上寺

丑 七月廿八日 代官所

別紙之通り御書付出候間、為心得相達候条

組合村々早々申通、村役人宅前等へ被出(承之)

置可申候、虚無僧之儀ニ付而者是迄品々

如何之風聞も有之、所ニ寄留場等与

認候棒杭、宿村外れ榜示杭一同建有之も

相見、何等子細ニ而建置候哉、今般御書付之

表ニ而者右様之義者有之間敷儀ニ候

何れも御書付ニ不振様宿役人勤厚相心得

流弊ニ 取計いたす間敷候、回状早々

順達(文之)(留)り・中山誠一郎方へ可相返候、以上

関東御取締出役

安原燾作 河合一平 斎藤畝四郎

大熊左助 吉(田) 僖平次 大田源介

駒崎静助 渡邊園十郎

申四月

廿七日 中山誠一郎

品川宿・中目黒村・上小田中・東大森村・川崎宿
神奈川宿・程ヶ谷・六浦

右寄場役人

大惣代中

小

右之通御廻状を以被

仰渡候間、則□うつし相廻シ申候間

御披見之上、早々御順廻留村・

御序之節

上小田中村

申四月廿九日

名主

□□□

右村々

御名(又ケ)(主) 衆中様

虚無僧とも修行之躰ニ而ねたりケ間敷義申懸候者之儀ニ付、安永三年相触候趣も有之候処、近年宗風猥ニ相成不法狼藉之者多候ニ付、今般取調之上西役寺番所ニおみて形を忍候子細承糾候もの之外、一宗寺院ニ而者入宗いたし僧呂、人別ニ不相成者弟子ニ致間敷、尤弟子取いたし候節武家勤仕之ものを入宗証人ニ相立可申元来普化禅宗与唱臨濟之支流故、専ら禅風を相守武門之隠家或者身元難顕杯与申唱候筋無之、向後真実之虚無僧而已いたし、宗縁・助吹等の名目一切相止、修行先之儀も都而諸宗僧侶同様志次第之施物を請、相對を以穩便ニ止宿等いたし、御用向杯与申唱或者ねたりケ間敷義等いたす間敷旨一宗之者とも取渡候間若此上不法之者有之候ハバ、其所ニ而差押早々其筋□。可訴出候

壹番目

右之趣、御料・私領・寺社領迄不洩様可被相触候

右御書付之趣村々致
承知村下令印形、此廻状
刻付ニ而早々相廻留村
可相戻候、以上

増上寺

代官所

丑

十一月廿二日

申下刻出ス

新古領

村々

上様御事

將軍

宣下御当日

公方様与可奉称候

右之通可被相触候

十一月

別紙御書付之趣

太田撰津守殿より

御達有之候間可被得

其意候、尤来廿三日

將軍

宣下御規式有之候ニ付

諸事相慎別而火之元

可被入念候、以上

十一月廿一日

役所

代官所